

復興県民会議

被災者本位の日も早い復旧・復興を

〈発行〉東日本大震災津波救援・復興岩手県民会議

〒020-0015

盛岡市本町通2-1-36

浅沼ビル 5F いわて労連内

☎ 019-625-9191

FAX 019-654-5092

eメール fukkou_ikg@fukkoukaigi.jpn.org

No.49 (2022/6/6)

すごいぞ普代！ 海も山も村人も

11年のつどいに50人参加（国民宿舎くろさき荘にて開催）

復興県民会議は、東日本大震災津波から11年のつどいを5月29日（日）午後1時から普代村「国民宿舎くろさき荘」で開催し、県内各地から50人が参加しました。

オープニングは、ふだい荒磯太鼓の演奏。こどもも含めて7名が爽やかな笑顔と躍動感あふれるバチ捌きで参加者を魅了しました。

続いて、津波犠牲者への黙祷を捧げ、西崎滋代表世話人が主催者あいさつ。西崎氏は、昨年発行した復興県民会議10年の活動記録に触れ、震災当時、大学の調査で普代村長から水門や防潮堤のことを聞き取りしたこと、本日のつどいでは村民の復興と地域振興への取り組みを学びたいと述べました。

絵本で大震災津波を伝承



主催者あいさつ 西崎代表世話人

全国災対連からのメッセージを紹介した後、各界からの発表に。最初に「東日本大震災津波伝承絵本『普代村を守った奇跡の水門』教訓の伝承と命の尊さ伝える絵本をめざして」と題して、村観光振興室の森田安彦室長が発表しました。この絵本は3つの物語で構成され、「普代水門建設の物語」、「紙芝居が生まれた大学生との交流物語」、「震災を語り継ぐ普代村の物語」と説明しました。

「田舎」を活かして仕事も子育ても（金子さん）

続いての発表は、「田舎だからできる私の挑戦」と題して（有）カネシメ水産代表取締役の金子太一さんがお話ししました。会社は父が漁協退職後の92年に創業し2年前に太一さんが受け継ぎました。金子さんは、最初に、担い手不足や高齢化、温暖化の影響、乱獲による資源の枯渇など水産業界の



オープニング ふだい荒磯太鼓の演奏



絵本の説明をする森田室長（右）



IBC大塚アナの音声録音で絵本の紹介



発表する金子さん

抱える課題を説明。震災後、仕事に向き合う自分の気持ちが変わり、どうやって付加価値をつけるかに苦心し『神経締め』で鮮度を保つ技術を体得。「付加価値化は、安定供給と継続、さらに進化が求められる。そしてPRや本気度も必要だ。これからは量よりも質が求められる時代になる」と強調。「ナノバブル」や「通電加熱」も用いて付加価値をつけていることを報告しました。コロナ禍で飲食店からの注文がなくなり、価格が下落する一方、資材や燃油の高騰などで利益が落ち込んでいるが「小さな村だからこそ人のつながりを大切にしたい。『生で食べられる荒巻サケ』や『鱸（さわら）の荒巻』など新商品も研究している」と話します。また、新たな資源

としてジビエを考え猟友会にも入って食肉処理も経験。普代の大自然の中での子育てなど、田舎だからこそできることを仲間を増やしてどんどんやっていきたいと力強くお話ししました。

昆布うどん、ラーメン、はっと 特産品の抽選会

道の駅「青の国ふだい」駅長の久保弘昭さんは、「沢山ある海の幸の中でも特に昆布が町おこしの中心となっている。色々なものに昆布の粉末が練り込まれて風味や色合いも良く、健康食だ」と紹介。釜石出身で盛岡から赴任した久保駅長は、普代村は人々とのつながりが深く、道を歩いても気軽に声をかけてもらえると話しました。その後、抽選会が行われ、当選番号が呼ばれる度に拍手と歓声が上がりました。最後にご当地キャラクター昆布ブラザーズの「すっきいとえんぞー」のぬいぐるみとストラップも急きょ「村長賞」として提供され抽選となりました。

我を無にし他の受け皿となり地域に貢献していきたい ～普代の美味しい豆腐屋さんを事業承継～

合同会社無 TOFokU(とうふおく)

東京でシステムエンジニアをしていた鬼東拓哉さんは、東日本大震災後、一次産業に興味を持ち、地域おこし協力隊の募集を見て2015年に普代村に赴任。村の情報発信を担いながら、1年目はほうれん草、2年目は原木椎茸の栽培を研修。3年目は「青の国」の職員として従事し協力隊の3年任期が満了する頃、村内で豆腐店を営んでいた上下静子さんが高齢で廃業することを聞きつけ、祖父がかつて宮崎県で豆腐店を営んでいたこともあり、事業継承を決意し



道の駅久保駅長（左）と司会の石田さん

上下さんに申し出ましたが一度は断られました。半年後、再び説得してやっと後継者として認められ、2018年10月末に開店しました。八幡平の有名豆腐店にも教えを請い、安定した品質の商品が出せるようになり、東北産の大豆と北三陸のにがりに拘った美味しい豆腐を作っています。さらに高齢化で買い物にも難儀する住民のために訪問販売を始め、今では固定客が増え経営も安定してきました。久慈から宮古までのエリアを視野に販売ルートの拡大を進めています。妻絵里香さんは宮城県女川町出身で震災の時は福島で被災し、岩手の復興支援で普代村に来て拓哉さんと出会いました。現在、家業の豆腐店と移住コーディネート、普代水門のガイドも担って活躍しています。

閉会あいさつ

復興県民会議の金野事務局長は、普代村の後援で、企画・運営が村と職員組合の全面的な協力の下で開催されたことに感謝し閉会あいさつを述べました。

今回のつどいの模様は、エフエム岩手「青の国からふだいラジオ」(毎週月16時45分～)でも放送されています。(6月6日～)



豆腐屋さんの鬼東さんご一家

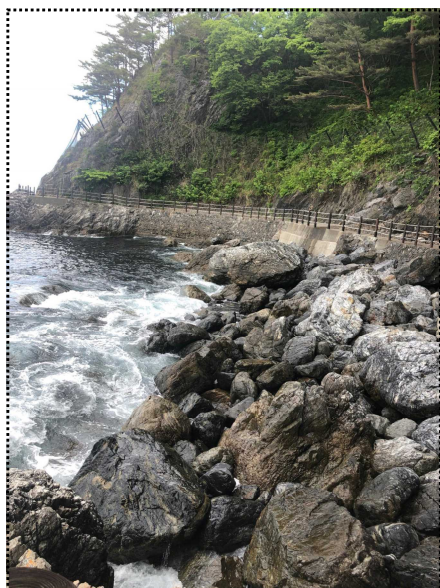
オプション企画 北緯40° 地球村体感ツアー・スナップ



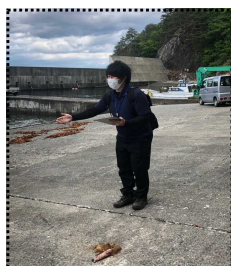
普代水門の見学



説明する鬼束絵里香さん（右）



岩場の遊歩道を歩きます



普代村役場の皆さんに
色々お世話になりました

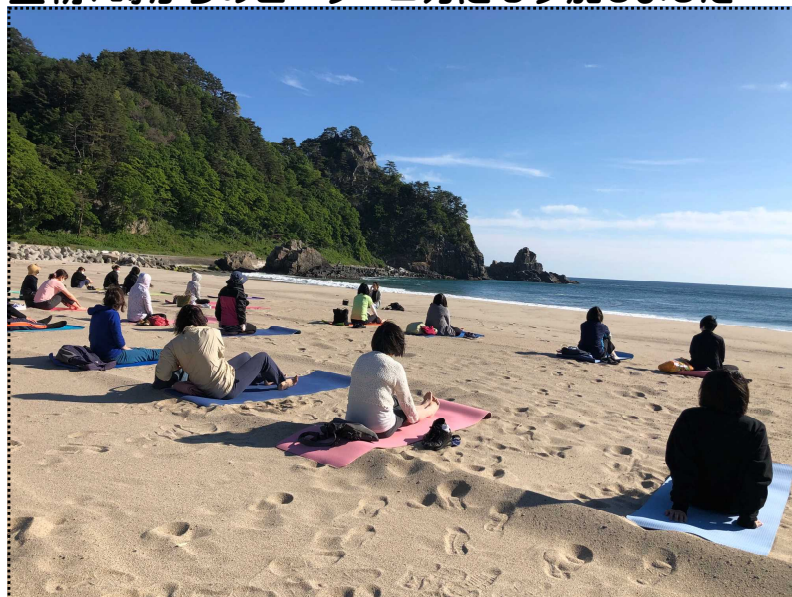


トンネルもくぐりました



難関の750段を登頂する前の元気な参加者

翌朝7時からのビーチ・ヨガにも参加しました



キラウミの砂浜でゆったり心身が癒やされます
9月まで毎月最終日曜日に開催、朝7時から

参加者の感想

◇つどい・オープニング(ふだい荒磯太鼓)について

- ①勇壮な太鼓で感激しました。もう少し聞きたかったです。
- ②ワクワクした気分鑑賞できました。
- ③とても迫力があって演者の皆さんも笑顔で伝統がしっかりと引き継がれている様子が見えてきて人口は2600人と少ないながらも助け合いながらのアットホームな村なんだなぁと伝わって来て胸が熱くなり感動しました。
- ④迫力があって良かったです。
- ⑤迫力満点息をのむ演奏に感動しました。日頃から鍛錬しているということが伺え、完成度が高いと思いました。一人ひとりのリズムに合わせた動きや表情があり見せ場や決めるところ盛り上がりがあり、集中して見聴き入りました。すばらしかったです。
- ⑥良かったです。
- ⑦大変勇壮で素晴らしかった。挨拶なども爽やかであれで普代のイメージが一変した。結構すごい村だぞ！エネルギーあるところなのでは？という印象が変わった。
- ⑧良かったです。
- ⑨「荒磯」とは逆に明るい演奏でよかった。

◇11年のつどいについて

- ①森田室長のお話はとてもわかりやすく良かったです。エピソードやこぼれ話があればもっと良かったと思います。カネシメ水産の金子さん、青の国ふだい駅長の久保さん、TOfokUの鬼束さんご一家、皆さん若い世代が頑張っているって普代の未来は明るいと思えました。
- ②特に金子太一社長のお話に感動しました。もっと儲けなくてはという「市場原理主義経済」からすれば「あるものがなくなってしまう」が「ゆっくりした経済→生活のための経済」との視点から見れば、たくさん「物産」にあふれているのではないのでしょうか。(中略)金子社長のお話には改めて感動しました。
- ③4組の皆さんの個性が際立ち、それぞれ皆良かったと思いました。ありきたりの報告でない、生の声、村の方々、多くの人々の顔が見えてくるようで本当に良かったです。これからも普代にちょこちょこ行って住民の皆さんともお話ししたり、聞いたりしてみたいと思いました。
- ④皆さんとても前向きに生きてると元気をもらったように思います。私も20~30歳若かったら別の地で活動してみたいと思いました。災害はとても辛いですが、それがきっかけで絆が生まれたようにも思いました。
- ⑤(前略)地域で工夫しながらなんとか「がんばっています」という報告が良いですね。若い人が希望や夢を語る、良いです。内容も硬くなくゆるい感じで良かったと思います。(中略)
- ⑥良かったです。
- ⑦どの出演者も、わが町への愛情がほとばしって面白かった。最初から最後まで「ふんふん」と興味深く聞いていた。人口減少や過疎で苦しいのは、県内どこでも一緒だと思うけれど、それへの嘆きを言わず、やりたいことが沢山ある、手伝ってくれる人がいたらもっと良いのと言われると、手伝いたい！と思うと思う。楽しそうな人のところに人は集まるよね。カネシメ水産の社長さんはこれからもっと面白いことをやってくれそうな人だなと思う。サインをもらっておけば良かった。
- ⑧皆さんの発表は個性的でユニークな内容で若い人が活躍している村だとの印象を受けました。野田の水門も大きいと思っていましたが、普代の水門はもっと大きかったです。
- ⑨カネシメ代表取締役の話が印象的。中小の会社の話は聞く機会が少なく、色々工夫・努力し、地域を大事にしていることが分かったので良かった。「チーム普代」アットホーム感満載。

◇来年の開催場所について

- ①洋野町でまだ開催していないと思いますのでぜひ洋野町で。
- ②やはり震災を風化させない意味でも被災地支援が良いかなと思います。
- ③今回と同じように地域で頑張っている所を応援できるのが良いです。ゆるい感じでの集会と歴史発見とか体験型とかのオプションツアー付きをお願いします。この「つどい」の意義の一つとしても「みんなで沿岸に行こう」が良いのではないかしらwww。
- ④まだ行っていない洋野町が被害が酷かった大槌町。どこで区切りを付けるか考える時期が来ていると思う。